

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870201294
法人名	医療法人かとう内科
事業所名	都市型グループホーム『ゆう』
所在地	愛媛県今治市立花町2丁目9-35
自己評価作成日	平成27年10月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

母体が医療機関である為利用者さんの体調不良や急変などにもすぐに対応できます。調理のだしはいいことこんぶの自然なものを使用している。小、中、高校があり行事に参加できます。同じくスーパーが近くにあり、いつでも買物が出来ます。敷地内に畑があり四季の花や野菜の収穫が楽しめます。家族の希望があれば看取りも可能です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

運営推進会議は、民生委員、近所の方等の参加を得て開催している。老人会の方には、まず事業所を見学してもらい、会議参加を呼びかけており、昨年メンバーが順番に参加してくれている。'老人会で出来るのであれば協力したい'と言ってもらっており、'ブルーベリー'の苗を持ってきてもらい、育て方等のアドバイスをもらいながら一緒に育てている。利用者、ご家族については、事業所全体で各一人ずつ順番に参加してもらっている。ご家族は運営推進会議に順番に参加しており、日頃のケアへの感謝の言葉や、'出来ることは何でもさせて欲しい'、'下肢筋力が落ちているのでもっと歩かせてほしい'等のケアへの希望、要望がある。出された意見や要望についての取り組みは、その後の会議で報告している。年末には、ご家族も交えた'忘年会'を催しており、ボランティアの三味線演奏や歌、踊り等を観賞して一緒に楽しい時間を過ごせるよう企画している。又、一緒に食事しながらサービスについての意見や要望を聞く機会にもなっている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 都市型グループホーム『ゆう』

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)

氏名 秦 珠美

評価完了日 平成27年10月1日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 和やかな雰囲気が作れるよう理念を職員間で共有し実践を心がけている。	
			(外部評価) 「話しやすく和やかな雰囲気づくり」と理念をつくり、目に付くように玄関や居間に掲示している。朝の申し送り時には、理念を唱和して共有に取り組み、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域カルチャーセンターでの文化祭や敬老会の行事に参加したり、学校(高校)との交流にも努めている。	
			(外部評価) 地域の文化祭には、利用者と職員で作った貼り絵や折り紙等の作品を出展し見に出かけ、おはぎやうどん等のバザーで食事して地域の方と交流した。隣接する高校から運動会に招待され、毎年見に出かけている。又、昨年からは、「家庭クラブ」の生徒が学期末に10名ぐらい来てくれて、歌や折り紙、ゲーム等をして交流している。利用者は「元気をもらう」等と言って喜んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) カルチャーセンターで開催される認知症サポーター養成講座にスタッフとして参加している。今後も積極的に参加していきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に出席された自治会長さんや民生委員のご意見を、スタッフ間で回覧しサービスの向上に努めている。利用者のことを考えてブルーベリーを苗を頂いて育てている。</p> <p>(外部評価) 会議は、民生委員、近所の方等の参加を得て開催している。老人会の方には、まず事業所を見学してもらい、会議参加を呼びかけており、昨年からはメンバーが順番に参加している。「老人会で出来ることがあれば協力したい」と言ってもらっており、「ブルーベリー」の苗を持ってきてもらい、育て方等のアドバイスをもらいながら一緒に育てている。利用者、ご家族については、事業所全体で各一人ずつ順番に参加してもらっている。</p>	<p>高校の先生にも参加をお願いしている。ケアマネジャーは「機会を見て近所のスーパーの方や近所の方にも参加を呼び掛けたい」と話していた。又、会議に参加するご家族以外の方にも会議内容を報告して、事業所の取り組みを知ってもらったり、意見や要望を出してもらえよう取り組んではどうだろうか。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 包括支援センターや高齢介護課の職員など運営推進会議に参加して頂き、助言を頂いたり、利用者さんのことでも相談をしたりしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者からインフルエンザやノロウイルスの予防等についての情報提供や助言がある。ご家族からの相談を機に、市の担当者に成年後見制度について説明をしてもらったこともある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ご家族の了承のもとで安全の為やむを得ず玄関をオートロックにしている。</p> <p>(外部評価) 玄関のドアはオートロックになっており、外からは自由に開くが、内からはロックを解除してから開けるようになっている。オートロック設備については、ご家族にアンケートを取ったこともあり、ご家族からは「安心だから」とロックすることに賛成だったようだ。職員も「事故があつてはいけなから」とロックに安心を感じていた。来訪者が帰る際、ロック解除している間に出ていくような利用者があり、GPSを携帯してもらおうようにしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修などには積極的に参加し(12月研修予定)。パンフレットなどで社内研修も行い虐待の防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 在宅介護研修センター等の研修など積極的に参加するようにしている。必要のある利用者や家族には市の関係者に詳しく説明をしてもらう等の支援を行なっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時にご家族に重要事項説明書と契約書をお渡しし説明を行なっている。分らないことは随時、質問を受け不安や疑問に対して説明し理解・納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご意見及び要望に関しては出来るだけ運営に反映できるよう努めている。	
			(外部評価) ご家族は運営推進会議に順番に参加しており、日頃のケアへの感謝の言葉や、「出来ることは何でもさせて欲しい」「下肢筋力が落ちているのもっと歩かせてほしい」等のケアへの希望、要望がある。出された意見や要望についての取り組みは、その後の会議で報告している。年末には、ご家族も交えた「忘年会」を催しており、ボランティアの三味線演奏や歌、踊り等を観賞して一緒に楽しい時間を過ごせるよう企画している。又、一緒に食事しながら、サービスについての意見や要望を聞く機会にもなっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日の申し送り時及び月1回のカンファレンスの際話し合いなどで決定したことを反映させている。	
			(外部評価) 月1回、職員カンファレンスを行い、「利用者のケア改善」について話し合ったり、研修受講者が内容を発表等している。職員から意見が出れば管理者は、まず「やってみよう」と後押しをしている。たとえば、食事時、おかずをいろいろなもの混ぜてしまい、食事が進まない利用者のケースでは、職員から「一品ずつ出してみてもどうか」と提案があり、職員が統一して支援し、スムーズに食事できるようになったようなことがあった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 研修、受講の際には優先的にシフトを組むように指示されており、各資格を取得した時はそれに応じた報酬を頂いている。労働時間も時間内に終了している。	
			(外部評価) 自主的に受講、研修を行なっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム交流会にさんかし、他のグループホームと研修で意見交換を行なっている。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人、ご家族の要望に耳を傾け、課題分析や基本情報を把握した上での関係作りに努めている。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 施設で生活する上での今後の希望や不安を聴き取りながら関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 同法人のDrや居宅介護支援専門員との連携を取りながら、必要な支援を見極め、対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) たとえ時間がかかっても、うまく出来なかったとしても、その人に合った出来ることをして頂き、出来にくい事は一緒にするよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族が面会に来られた際、最近の様子を伝、本人を支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 以前住んでいた家へドライブに行ったり、友人・知人の方が面会に来られた際は丁寧に対応させて頂いている。 (外部評価) 親戚の人やご家族の来訪時、職員は、明るく挨拶し、ゆっくり過ごしてもらえるよう声をかけている。近所から入居している利用者から「自宅の庭が見たい」と希望があり、職員は時々、車椅子を押して見に出かけられるよう支援している。利用者の中には、新聞に故郷の記事が載っていると切り抜いておく方があり、その記事をもとにして会話が弾むようだ。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションで声を掛け合い、皆が参加できるようなゲームをしたり、紙芝居やしりとりなどを行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 不慮の事故及び体調悪化などの理由により入院された方に出来るだけ面会に行き、お話を聴くよう心掛けている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの思いを汲み取り、その人に合った暮らし方をしていけるよう努めている。 (外部評価) 日々の会話の中で希望や要望を聞くよう取り組んでいる。入浴時は、じっくり話することができる時間でもあり、職員は利用者に「どんなことがしたい?」と聞いており、利用者の中には、「ストレスなく過ごしたい」と話す方もいるようだ。利用者から得た情報は、センター方式の用紙に記録しているが、利用者によっては情報に偏りがある方もある。	利用者がその人らしく暮らし続けられるよう、個々の思いや意向を探るような取り組みに工夫してほしい。情報を整理して介護計画につなげてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 病院からの看護サマリー、居宅からのフェイスシート、センター方式等の資料とご家族、ご本人の話しなどで把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の申し送り時などに一人ひとりの現状についてスタッフ間で情報を共有し、どう支援するべきか話し合いを行なっている。又、Drからも意見をもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族、ご本人の希望を聞き、現状に即した介護計画を作成し、個別のサービス計画を介護記録の表紙に貼り、スタッフが記録する際すぐに見れるようにしている。毎月の介護経過とモニタリングで現状に即した介護計画を作成している。</p> <hr/> <p>介護計画は、ケアマネジャーが作成しており、主治医である法人医療機関の医師に目を通してもらって、健康面についてアドバイスをもらう仕組みになっている。利用者個々の担当職員が毎月「介護支援経過」でアセスメントして、6ヶ月毎の見直しにつなげている。介護計画の内容には番号を振り、日々の介護記録には番号を記入して支援内容を記録するようになっている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個別の記録以外にも、変化や気付きは別の日誌に記入し、毎日の申し送りなどにより情報を共有した上で介護計画の見直しに活かしている</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>スタッフのアイデアや持っている特技、技能を活かし、臨機応変に対応できるよう取り組んでいる。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>図書館などを利用し学校、カルチャーセンター等、地域の行事にも参加している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 希望のかかりつけ医に受診、送迎している。家族の居られる方は家族が連れて行かれることもある。かかりつけ医の無い方はかどう内科に受診している。	
			(外部評価) 法人医療機関がかかりつけ医になっており、往診を受けている。又、毎日、午後10時には、職員が医師に電話して利用者の状態を報告している。又、夜間は、いつでも連絡がつくようになっている。ご家族の希望があれば、医師と直接話す機会を作っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 朝夕の申し送り時はもちろん、情報や気付きなどを看護職員にその都度報告、相談している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 母体の病院とは、常に情報の交換、相談など関係者との関わりも密にできている。他の医療機関とは必要に応じて連絡をとっている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早い段階よりご本人、家族と話し合い、方針を共有しチームで支援に取り組んでいる。	
			(外部評価) 入居時に「みとり、終末期の対応に関するお知らせ」を利用者やご家族に説明して意向を聞き、同意書で確認し合っている。現在は、「最期まで事業所で過ごしたい」と希望する方がほとんどのようだ。今年、看取り支援した事例の中には、亡くなる前日まで食堂でみなと一緒に食事してゆっくり穏やかに過ごされ、ご家族に見守られながら旅立ったような方の事例があった。職員は少しずつでも口から食事ができるような支援に努力した。ご家族は「苦しまず、最期までそばに居て見送れてよかった」と感謝の言葉があったようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 各自が研修に参加したり事前にDrやNsから指導を行なっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練、地区での防災訓練に参加し、防災用品も1F,2Fに置いている。	
			(外部評価) 2階ユニット利用者の避難について、職員が利用者役になり、マットレスを使って、階段を滑り避難させる訓練を行った。消防署から水消火器を借りてきて、消火器の使い方も習った。地域から1名の方の参加があり、一緒に訓練をした。地域の防災訓練に職員が参加して、「身近なもので作る担架」や「簡易トイレの作り方」等を教えてもらったり、非常食の試食をした。台所の壁には、全国統一防火標語「消したはず、決めつけなくてもう一度」を貼って、日頃から防火意識を持つよう取り組んでいる。防災グッズは準備しており、食料等は台所に多めにストックしている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に人格を尊重し、プライバシーを損ねない声かけ、対応に留意している。	
			(外部評価) 利用者の中には、場所間違いで他利用者の居室に入るような方もあるが、職員は、「用事があれば職員に声掛けてね」と言ったり、他利用者の居室であることをその都度伝えている。利用者の言葉で聞き取り難い場合、何度も聞くことをせず、他職員にも聞く等して理解できるように努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定を促し、希望に沿った支援をするよう心がけているが、入浴拒否のかたにはできるだけ入っていただくよう勧める時もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 強制することはなく、ほぼ自由に過ごして頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時の整容、衣服の選択など、希望に応じた支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べたいものを聞き、喜んで食べて頂けるメニューを工夫したり、野菜の下ごしらえや台拭きなど、その人に合った作業をして頂いている。	
			(外部評価) 法人の栄養士が立てた献立表をもとにして、その日の当番職員が材料や利用者の希望を聞きながらアレンジして食事を作っている。肉や魚は配達してもらっており、その他の食材は、近所のスーパーで地元のもの、旬のものを購入している。だしは、昆布とiriこを使っている。近所の方やご家族からもらった野菜や自家菜園の野菜等も使用している。調査訪問日の昼食は、2名の職員が利用者と同じものを食べていた。テーブルには、お茶の入った急須を置き、ご自分で注いだり隣の方に「どうぞ」と入れてあげていた。食後にはテーブル拭きする方も見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士による献立表を中心に栄養バランスを考え個々に応じた支援を行なっている。食事・水分摂取量1日3回記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアは欠かさず行い、出来ない方はスタッフが介助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			自立していない方は排泄管理表をもとに、その人に合った間隔で誘導し紙パンツから布パンツへ、パットからナプキンへ等の自立支援を行なっている。	
			(外部評価)	
			利用者の排泄パターンを把握して声掛けや誘導をしている。入居時、おむつを使用していた方もトイレ誘導して支援することで現在は紙パンツで過ごしている。頻繁に放尿がある方は、ズボンを脱ごうとする時を見逃さずトイレ誘導したり、時間を決めて早めに誘導して支援しており、現在はトイレで排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			排泄管理表をもとに、排便のない方は先ずヨーグルトなどの食べ物で工夫し運動を促したり腹部マッサージなどを行い自然排便を心がけている。	
			(外部評価)	
			毎日入りたい方は毎日、特に希望のない方は2日に1度の入浴を強制にならないよう勧めている。基本的には午後からが入浴時間になっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			毎日入りたい方は毎日、特に希望のない方は2日に1度の入浴を強制にならないよう勧めている。基本的には午後からが入浴時間になっている。	
			(外部評価)	
			毎日入浴できるよう準備して、利用者個々に2日に1回入浴できるよう支援している。ご本人の希望で毎日入る方もいる。入浴を嫌がる方には、「診察があるから体をきれいにしておきましょう」と声かけして誘ったり、タイミングを工夫して支援している。「熱めのお湯が良い」「ゆっくり湯船に浸かりたい」等、その時々々の希望に応じた支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			自由に休息、睡眠はして頂いている。介助が必要な方は希望に応じ、くつろいで頂くよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく処方された薬について、その都度ネット検索や本により、目的、副作用の情報を共有し、症状の変化にも注意している。食後、一人ひとりに手渡して服薬確認し症状の変化の確認にも努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物干し、たたみ。新聞折り。音楽鑑賞、レクリエーション、ドライブ、散歩、畑での収穫、忘年会、パズルなどを実施している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人、家族の希望により一緒に外出されたり、スタッフと施設の周辺を散歩、又、車でドライブに出かけたりしている。	
			(外部評価) 調査訪問日は天気も良く、職員と一緒に散歩に行く利用者の様子が見られた。毎月、ご自分で事業所の利用料を引き出しに行く方には職員が付き添っている。計画を立てて、お花見やミニ旅行に出かけており、11月には全員でしまなみ公園に旅行に行く予定になっている。運営推進会議時に、住民代表の方から地域の行事予定を教えてもらっており、今後もさらに、利用者が地域に出かけて一緒に楽しんだり活動できるよう、取り組みを工夫してほしい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの能力に応じてお金を所持したり、使えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙は自由にして頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 換気はこまめに行い、エアコン、床暖による空調管理をしている。廊下に写真や折り紙作品を表示、観葉植物を置きながまられるよう工夫している。	
			(外部評価) プランターに花を植え玄関外に配置している。玄関やテーブルには庭のマリーゴールド、鶏頭、葵や菊等を生けており、廊下には高校生と一緒に制作した貼り絵を飾っていた。居間から出られるベランダからは菜園が見える。季節ごとに野菜を育て、金木犀も植えてある。モップで床を掃除する等、職員と一緒に掃除する方もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングでの座席の配置は、利用者同士の様子を見ながら必要な場合は適宜変更している。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 昔の写真や、お好みの小物を置き、居心地よく工夫しており、換気もこまめに行っている。	
			(外部評価) お花が好きな利用者があり、ご家族が持参する生花を花瓶に生けて大切に世話している。壁面にも花の貼り絵を飾っていた。テレビを持って来ている方もいる。亡きご主人の写真に毎日お水を供える方もいる。掃き出し窓からベランダに出られるようになっており、利用者によっては、ご自分で下着を洗濯して干すような方がいる。ベッドから転落する心配がある方は、ご家族等と相談して床にマットを敷いて休めるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 1人で歩行が困難な方はオパールを使用して頂き付き添って移動。車椅子移動の方は手すりを利用し自走されている。居室やトイレが分りやすいように大きな字で書いた貼り紙をするなどの工夫をしている。	
			(外部評価)	